

三河アララギ

平成三十年 2018年

十二月号

第六十五卷 第十二号



ニューヨーク日記(146) <http://blueshoe.copetin.com/>

BlueCat, Shoe Lady

Blue Shoe Diaries



クリスマスディナーは行きたかった素敵なレストランへ行く最適の理由になる！だから先月ちゃっかりAdourに予約入れといたのだ！何たってお母さんが来るの知っていたし。食事とワインを合わせるのにシェフとソムリエと一緒にメニューを作るレストランなんだって。私が勝手にワインはオーダーしちゃったけど食事ととっても合っていてもしかしたらBlueCatソムリエに成れるかも！なんてね～（何時もあれだけ飲んでいれば成れるかも～）

X'mas dinner gives me the perfect excuse to go to a nice restaurant. So last month, I just happened to had made reservations at Adour. You know, with mom coming and all.

Dinner was fantastic! And yes, the sweetbread meunier was pretty great. At the end, we got one surprise dessert to share with some port. It was a merry x'mas indeed!

目次

第六十五卷第十二号(通卷七八〇号)

表紙・連 今泉 由利 (1)

ニューヨーク日記(146) Blue Stone (2)

黄素馨の門 御津 磯夫 (4)

三河アララギ歌集VI 大須賀寿恵 (5)

歌集「續草々」 今泉 米子 (6)

三河アララギ歌集VI 河原 静誠 (7)

秋の庭 岡本八千代 (8)

一昼夜 弓谷 久子 (10)

木目 今泉 由利 (12)

曼珠沙華 安藤 和代 (13)

辞書 清澤 範子 (14)

秋枯れ 伊藤 忠男 (15)

日間賀島 白井 信昭 (16)

山車 森岡 陽子 (17)

みのり田 山口千恵子 (18)

冬瓜 杉浦恵美子 (19)

安堵 阿部 淑子 (20)

はや秋の去りゆく 夏目 勝弘 (21)

『こよせ』 しいはこぶ

牧原 正枝 (22)

石田 文子 (22)

森 厚子 (22)

山崎 俊子 (22)

三田美奈子 (22)

水野 絹子 (23)

牧原 規恵 (23)

稲吉 友江 (23)

鈴木美耶子 (23)

吉見 幸子 (23)

東洋大学

岩田 花 (24)

高橋 彩良 (24)

角一 峰昭 (24)

長野 天音 (24)

岸 夏美 (25)

上島 空 (25)

深谷 まの (25)

加藤 楓花 (25)

森岡 陽子 (26)

高橋 育郎 (28)

今泉 由利 (30)

柳田 皓一 (30)

山迫 京子 (30)

山元 正規 (31)

森岡 陽子 (31)

松本 周二 (31)

重野 善恵 (32)

植村 公女 (32)

今泉 如雲 (32)

杉浦 弘 (33)

田中 清秀 (34)

丸山酔宵子 (36)

江上 浩二 (38)

山本紀久雄 (40)

今泉 雅勝 (42)

平井 茂行 (44)

『歴代天皇御製歌』 貫名海屋資料館 (46)

萬葉秀歌の鑑賞 津之地直一 (48)

『歴代天皇御製歌』(九十五)

貫名海屋資料館 (50)

本田カイロブラクティック先生の春夏秋冬

本田 勇氣 (54)

御津磯夫短歌鑑賞 鮫島 満 (56)

『氷魚のことから』(215) 岡本八千代 (57)

編集室だより(二〇一八年十月) 今泉 由利 (58)

野菜・まんだら(10) (59)

『三河アララギ』について (60)

黄素馨の門(昭和四十一年〜昭和四十四年) 御津磯夫

山を祝り水ををさめて権力のすぐれしものを神とたたへき

わが庭にしげる本草とおなじくてももろの山は神ながらなる

久延毘古にも太田田根子にも立ちよらず柿の葉厚し消毒液に

亀石も橘寺も指して過ぐ心ひとつに檜隈ひのくまの丘へ

五十年わがおもひつつ書きつぎきみあともしるしけふのまゐり路

枝たれて高市野口の柿の畑山につづけるみさぎの道

高市の丘やさしくて細き田の秋のみのりをいく重めぐらす

花のごときトベラの珠寶たるるさへかしこみ仰ぐつひに到りて

三河よりけふの五人のつかへまつる檜隈大内のひとつみささぎ

引馬野のいほりをいひて五十年いまぞやすらふこのみささぎに

三河アララギ歌集VI

大須賀寿恵

夜更けてひとり帰り来る野添の道暗渠流るるかすかな水音

澄みながら豊かに流るる用水路の水藻にひとつ台湾田螺

ひとときの雷雨のちの用水路を刈り草片よりはやく流るる

雷ひとつ轟きすぎたるあかときを鳴き澄めるかなひとつこほろぎ

明日こそは何かよきことありぬべし夕茜空ひとり見て佇つ

笹の間を漂ひながらうつりゆく綿虫をつひに見失ひたり

青き尾の鋭く光るかなへびはリラより落ちてリラにかくりぬ

うろこ雲夕焼色に染まりつつ何もなかりしけふの暮れゆく

かすかなる音して上げ潮のぼりゆく波には白き水泡をのせて

ヘヤーブラシにつきくる抜毛白多いよいよわれに秋深むかな

歌集 「續草々」

今 泉 米 子

降り出づる雨の音うれし白萩は砌に近く昨日植ゑたる

紅梅の老いたる枝のやすらけし新しき支柱の青太竹に

庭石の蔭より見ゆる石露の雨の降る日の黄の花いろ

松の間に枝差し垂れてダチュラ咲きたまたま夕べ裏庭に出づ

窓下の土にもみぢを保ちゐる二人静を折々に見る

隈白くなりはじめたる庭の笹つやつやとして秋終る雨

ぬばたまの珠實をわれは拾ひあぐ黄の曼珠沙華咲きゐしところ

曇りふかく冬に入りたり黒々と光る珠實を拾ひあつめぬ

梗折れて土に散らばふ曼珠沙華の黒き珠實は拾ひやすしも

長き廊下大きな家にて年すぎぬかく疲るるは思ひみざりき

三河アララギ歌集VI

河原静誠

見る夢は幼き日のこと多くして一つ赤き手毬奪ひあふ

吾が為に山の媪の摘みたまふ薬草七種を今年も飲まむ

薬草を冷茶と思ひ吾は飲む薬師如来のダラニ称へて

朝の花夕の花と匂ふ庭弥陀の浄土と深呼吸をする

吸ふ息も吐く息もあり経を誦すわが前に立つ香の煙一条

中興上人の花筒の中より這ひ出でて両手をつぎをり青雨蛙

日に三度省みよとぞ教はりぬ鏡に映る吾は円頭

泰山木の眞白き花の今ひらく白色白光とわれは誦したり

山を拓き農道すらも舗装して水の不足をかこちあひをり

鷺草は野に咲きゆくを好とするあるがままにと読む歎異鈔

秋の庭

蒲郡 岡本八千代

子規の名と同じき字も書くホトトギス子規今年の秋のわが庭に咲く

造りたる低く小さき築山の裾に咲き出づわがホトトギス

ホトトギスホトトギス子規子規よと心へのみ思ひつつ見てをり庭に佇つわれ

友ありて近くより来しも愉しかりたわいなきことただ語らひて

日は落ちて「秋は夕暮」浮かびくる西海の方はやもオレンジ色

マンガ読みて自づと笑ふわが声に気づきつつまた笑ふわが声

わが庭にキツネノカミソリ咲きてをり不吉にもいや吉に思はむ

教へ子より小布施の葡萄ぶどう送りきぬ一粒一粒の甘き雫よ

何もかもシンプルに暮さむと思ひたちなぜか少しく嬉しくなりぬ

わがために今日も来てくれしわが娘の帰りゆく車をじつと見送る

暮れてゆく夕焼け小焼けの空の下仰ぎてなぜか老ゆるたのしさ

生あるものやがてこの世に居なくなるあたり前とや思へど不思議

またけふも風にゆれをり庭遠く芒穂しろじろふはふはとして

けふの陽も沈みゆくかな庭に佇つやうやう咲き出ししホトトギスの処とこ

隣屋の風光計の高くしてけふも夕日の反射に光る

一昼夜

豊川 弓谷 久子

ひたすらに夜明け待ちをり暗闇の世界を台風荒れ狂ひをり

懐中電灯片へに置きて停電の中台風二十四号過ぎゆくを待つ

一昼夜の停電かくも不便なり永き被災の人等思ひぬ

台風に吹きたまりをり落葉はく今朝も大き袋いっぱい

ぎつくり腰の痛みも今日はうすらぎぬ秋服出さむ子の手を借りて

これも秋の風物詩幸田より筆柿届くうれし筆柿

箒草と呼びて親しみし幼なき頃よコキアこんもり朱色に染まる

固く束ねて母が作りし庭箒コキアを見れば母浮かび来る

みさと運転の車で向ふ弥田医院月に一度の診察日なり

足元に気を付けてねと先生も看護師さんもみなやさしくて

海渡る神輿眺めし日もありき今日三谷祭り秋晴れとなる

台風が悪影響か金木犀の葉は落ち続く昨日も今日も

石路の花茎立ちて黄の花の凜と咲き初むこぶりなれども

農道は我が散歩道父母の野良着姿の面影追ひぬ

穫り入れの済みたる畦に一人佇つ人影も無し秋風立ちぬ

木目

東京 今泉 由利

自^{おの}ずから微笑みたりどっさりと今年のお米届きしことよ

籾種のご飯となりゆく詳細は小学校のわが通学路

釈迦如来坐していただく蓮台の一つ一つの雄蕊彫りゐる

千年の時を隔てて解けしごと運慶仏師の彫られし次第

骨格の全けく見ゆる十大弟子清貧修行戒律のこと

難しきことは思はずただただに千年前か木目見てゐる

木の命仏師の命仏像の命伝ひ来ことごと受くる

坐禅ともストレッチとも言はずして一時間ほど静かに過ぐる

もうひとつの命のためにと残されし七粒ほどのご飯よご飯

ぎざぎざの枯れ枯れ葉っぱの間より銀輝^{あわひ}やきて辛夷の蕾

曼珠沙華

豊川 安藤 和代

曼珠沙華咲けさけ赤く今日夫は旅立ちました七十七才

今日も又夢かゆめかと確むる遺影は部屋には、笑みてあり

竹筒と袋片手にいなご取る昔なつかし実り田の道

夫の全快祈りて折りし千羽鶴今秋風に寂しくゆるる

夫の香の残るる夏の野球帽かぶりて庭の草を抜きおり

今朝とみにひよどりの声さわがしき運動会か秋の祭りか

悲しみの涙は吾れに似合ぬと自分に言いつ菜の花を蒔く

熱爛に悲喜こもごもを折り混ぜて一人飲みいる秋の夜長を

孫が来る吾れの心ははねてをり夕餉の南瓜真二つに割る

師のことば胸にいだきて今日も過ぐ石巻山上月かがやけり

辞書

春日井 清澤 範子

文字書けば忘れし文字の多くして辞書にルーペを前に置きゐて

御津先生の赤ペンと文字の添削を想ひ出しをり今読み返す

台風24号は伊勢湾台風に似たるコース春日井の住宅にも避難勧告

台風の備へに花鉢幾つかを門の内に入れて暫らく

台風は26号まで発達し予報士の解説にハラハラドキドキ

門に繁る木犀の枝を切りとりき庭師の剪定ますます合格

24号25号と台風発生春日井のわが家は通り道なり

予報は雨なれど日差あり買物に晴雨兼用の傘持ちて行く

乾きたる庭に小雨の降り出だし椿の葉の濡れゆくを暫し見てゐる

夫の作る里芋は莖長く伸び朝露コロコロ宝石の如

秋枯れ

大阪 伊藤忠男

我が世界核無き平和幻か今も苦しむ広島長崎福島の人
ハイキング運動会に文化祭街はだんじり賑やかなこと
秋ナスに香り松茸味シメジ食卓楽し今のこの時
透き通る見晴らし冬の先駆けか暑き夏には寒き冬あり
稲刈りを終えて畦道散歩道残る稲株枯れ朽ちて行く
朝な夕な吹く風冷えを伴ひて巡る季節を指し示すなり
5歳なる孫の祝いも老いを知る我のその先囁み締める時
友の顔面影あるも歯がゆきや話し合わせてうなずき返す
荒波に群れ飛ぶカメ霞む島思い出遙か瀬戸の島々
秋なるか見るも聞くも腹の虫あれは美味なりこれも好物

日間賀島ひまかしま

豊川 白井 信昭

宮浦の行在所跡の木槿垣咲きつぐなかに紅色もあり

毎日の堤防の土手に彼岸花今日ふく風に赤色ゆるる

いついくつ農道端に彼岸花東西南北今を盛りと

またしても台風近づく二十四号頭を過ぎる伊勢湾台風

潮風に煽あおられ揉まれみ社の森楠みどり茶色となせり

み回りの台風一過の御堂山荒れにし道をヒメハルロード

ここよりは朝焼けコース倒木と落石よけつつ頂の歌碑へ

高速を来てここよりは縦断の知多半島を南知多道路へ

港より航跡ひきつつ高速船篠島しのしま經由日間賀島行く

江戸中期船頭重吉せんどウの古里と船長日記ふなおさを思い出しをり

山車

東京 森岡陽子

香り来て金木犀を捜せども姿は見えず香り塀を越ゆ

山車を引くきりりと絞めた豆絞りよいしよよいしよ子供等よいしよ

秋迎ふ蔵王連峰紅葉は見る間に姿雲に隠るる

山の中の静かな静かな町に鳴る長秀寺の鐘仕事の合図に

秋時雨たわわに実る柿の木に遠慮なきまま今も降り止まず

川端の細い細い道を行く小さな蕎麦屋新そばの香り

スマホ見てあちらこちらと日暮時米沢牛のステーキ屋さがす

轍たつ山形県の雪若丸今年生まれの新米デビュー

山形の古刹彩る錦鯉霜月なると避寒と引越し

この子達この子と説明ボランティア秋蚕手にのせ愛情で学ぶ

みのり田

豊川 山口千恵子

みのり田の畦より飛び立つ青鷺の大き羽ばたきとどまりて見つ
からからと柿の葉路地を舞ひてゆく台風に青葉散りてしまひぬ

一つのみ枝に赤き実見ゆるなり台風に裸木となる柿の木に

古新聞束ねて一輪車に乗せてゆく五ヶ月分を資源置場に

氏神様に当番の御燈明あげにゆく散りたる桜の落葉踏みつつ

道畔の落葉の中より拾ひ上ぐ丸き銀杏二十粒ばかり

刈りあとの藁の香のする道をゆく電動アシスト自転車はしらす

稲刈りのすすむ田の道通り過ぐ青き匂のただよう中を

刈りあとにみどりの伸びて稔らざる穂穂白く風になびかず

黒土に大根の青葉直ぐ立てり本葉の出できてみどりあざやか

冬 瓜

蒲 郡 杉 浦 恵 美 子

友の家に転がる冬瓜そのうちのいちばん小さきひとつを貰ふ

片手にて掴める冬瓜貰ひ来ぬ我が暮しにはこれにて足れり

厳めしき呼び名なれども未亡人慣れにけるかも八年を経て

すつぎゆらとも或いはしゃんぷうとも呼ばふ杉浦の姓世界は広い

この頃は恵美子と呼ぶること多しそれが嬉しい今日誕生日

ふと見れば昭和四十四年の硬貨なり半世紀間何処経巡る

十九歳記憶の彼方の軽さかな昭和四十四年の百円玉よ

青色がこんなにあおいものだとは白内障手術の翌る日の空

ぼんやりがはつきり見える散策は道の先までもっと行きたい

バスがない僅か三十分の先なのに日は暮れ始むわたしは独り

安堵

豊川 阿部 淑子

アララギの表紙を飾る曼珠沙華寄稿称えておしべ揺れ咲く

本庶氏免疫生かすガン治療ノーベル賞に輝く発見

ガン治療へ第四の道が開かれて救はる患者のよろこびの声

口角を上げて笑顔の表情を心がければ免疫力アップと

親に逸れ山でさ迷う三日間尾畠ベテラン探して安堵

はや秋の去りゆく

豊川 夏目 勝弘

一夜さを不安ならしめし黒き雲朝日に染まり南に流るる

台風の去りし朝はやばやと桧原に聞こゆ山バトの声

十日余り庭に咲きゐし赤と白との彼岸花も茎のみとなる

たびたびの台風に揉まれしネムノキも莢実の残る裸木となる

冬に向ひ深き緑の芽を出す彼岸花の尖り葉よろしも

紀州よりミカンを運ぶに使われしミカンソウは彼岸花の葉

産土の宮の祭も終りたりさて庭師の仕事にかからむ

数日を恋よび鳴きゐし山バトの声を聞かざる日の続く

山バトの巢は枯枝のみの簡素なもの釈迦の訓へのセンダイハラミタ

崖際に取り残したる一叢に赤あか赤かとアカノマンマ咲く

秋祭の昼の花火の音ひびく心にひびくものなき日日なり

同じ事のただ平凡な日日なりきその平凡をひたすら生きむ

『いよよせ』

(西浦公民館 いーはとぶ)

豚コレラの感染源はどこまでか夫はつまみに「豚足一本」を
母の個室障子しめたるままにして外をも今をも曖昧にして

牧原正枝

台風の進路にありし関西の身内に電話様子を聞けり

やうやくに熱中症の注意消え聞こえ出したり庭の虫の声

石田文子

猫モモを猫コテツより守りしに傷負ひし吾は歩くさへ辛く
傷負ひてこもりて過ごすけふの吾に金木犀のほのかなかほり

森厚子

波の音聞けば思ひ出づ桂浜の波打際に戯れし日を
ほのかなる金木犀のかほる道細きこの道とほとほ行くのよ

山崎俊子

平成の終りの秋のなごり茄子けふの陽ざしに紫美し

朝餉のあと五種類も菓飲みたれど淋しさはまたそのままにして

三田美奈子

「お布団が恋しい」と言ふ我が孫よ集団登校遅れず駆けよ
この国に働き学ぶ若人のその意気や壮夢に向かひて

水野 絹子

新たなる自然災害に立ち向ふわれら人間の小さきを思ふ
台風の襲来の予想ありて夫は大根の二葉の心配しきり

牧原 規惠

わが畑の草取りすれば空色のつゆ草一叢露に光れり
幾たびも茹でて晒して渋皮煮秋の香りの広がりにつつ

稲吉 友江

ワイパーはまうこれ以上動かざり岐阜の山路に今日の雨降る
二時間もカフェに語らふ私たちコーヒークップはすでに空つぽ

鈴木美耶子

堂堂たる八十三年のその歲月黒びかりの柱わが家族守る
幾度と茶会の手伝ひの時過ごす逝去されたる師との思ひ出

吉見 幸子

現代学生百人一首

東洋大学

ミサイクルが日本を通過しましたと今日の私のモーニングコール

星美学園中学校三年（東京都）

岩田花

液晶の架空の君に恋をするそんな自分が好きで不思議で

東洋大学京北中学校二年（東京都）

高橋彩良

合宿所せみの鳴き声聞きながら体休める至福の時間

専修大学附属高等学校三年（東京都）

角一峰昭

いとをかし平成女子はインスタにほうじ茶キャラメルフラペチーノ

和光高等学校三年（東京都）

長野天音

文化祭ライブの前の緊張感後ろにみえるは仲間の笑顔

東京都立江戸川高等学校二年 岸 夏美

一面に広がる白に全員で想いを一つに墨をのせてく

東京都立小松川高等学校二年 上^{かみ}島^{しま} 空^{そら}

汗流し家族のために家事こなす働く祖母は私のヒーロー

東京都立大森高等学校三年 深谷 まの

図書室で出会った本の貸し出し欄十年前の君とも出逢う

東京都立府中高等学校二年 加藤 楓^{ふう}花^か

贈呈誌

森岡陽子

柗 十月号

○緑濃き向うの山は息立ちてこの真昼間にぼやけて見ゆる

原 愛子

○水を落とし干割れする田は蛙鳴く声せず静けし夕べの道は

木下文子

○地下鉄に席譲られぬ日は背を伸ばし若き顔して吊皮に寄る

平川初枝

冬雷 11月号

○猫じやらし一穂引き抜き手振り来て彼岸供花のもとに加ふる

赤羽佳年

○通り雨わびすけの葉に光る露いくつを残し空晴れわたる

大塚亮子

○糸切れて不格好なる蜘蛛の巣に残る雨粒のやはらかな艶

中島千加子

○滝の水かかりて揺るる羊歯の葉に薄き虹の端せまり届かず

山口 嵩

鹿兒島アララギ 10月号

○夜となれば火星を見むと幾度か窓辺に寄りて飽くことのなし

掘之口ふさえ

○西山の入り日を待ちて花ばなに水撒きやれば日の匂ひ強し

中山タマエ

○風も雨もひとまづ止みてしづもれり秋告げて鳴くひぐらしの声

浜畑松枝

○火山灰の降る日の多くこの夏は漬かりし梅を未だ干されず

市来 栞

月虹 10月 124号

○点々と水面に灯り映しつつ川は静かに夕べを暮るる

成島 哲子

○発見の双葉の生ゆる水溜り生き延びよ草の名の解るまで

葉月ひさ子

○悠々と昇る朝日に照らされて真つ赤な砂の斜り浮きくる

清水和子

○倒木の脇より芽吹くのちあり我が眼は種子に火照りを覚ゆ

井村 喬泉

人生百歳音頭

高橋育郎 作詞

1 ハアー ソーレヤレ来た 人生百歳

シャン シャン シヤシヤンと めでたいな

長生き時代だ ドドドン ドン(ソレ)

元気はつらつ 太鼓の響き

老いも若きも 門出を祝おう

2 ハアー ソーレヤレ来た 人生百歳

心も体も リフレッシユ

生き甲斐持つて 生きていく(ソレ)

あっぱれお見事 生涯現役

健康寿命を 伸ばして行こう

3 ハアー ソーレヤレ来た 人生百歳

みんなちがって みんないい

お互いさまです 支えあい(ソレ)

いきいき生きてく 百歳バンザイ

シャン シャン 笑顔の花が咲く

『俳句』

ふうわりと蒲の穂絮の今し飛ぶ

今泉由利

透き通る赤色であり一位の実

白く咲き真赫く結ぶ実南天

多摩川に釣り人一人小鳥来る

柳田皓一

晩秋の雲ひとつなき一日かな

小鳥来る楠のある喫茶店

街騒を遠く木の実の落つる音

山迫京子

オフィスビル屋上庭園小鳥来る

椋鳥の群一斉に翔つ河川敷

ロダン像の影も前傾秋深む

山元正規

磐座に風の置き去る紅葉かな

漆喰の壁の小窓に小鳥来る

もてなしの菊の匂ひは三杯酔

森岡陽子

聞きなれぬ小鳥の声に目覚めけり

小鳥来て赤き実こぼす庭の畑

神宮の透き徹る井や小鳥くる

松本周二

欠けゆくを詩情と譚ふ居待月

花石露伸びて明るき狭庭かな

仕舞風呂秋のひと日を流しけり

重野善恵

ぼどぼどの望み叶ひぬ後の月

甘諸先生の墓を訪ねり芋の秋

行き過ぎて戻りし人や赤い羽根

植村公女

カーナビにまかせてひとり月天心

新米を供え一礼外出す

新北風や陸中野田の海の塩

今泉如雲

升に注ぐ津軽の酒や神無月

真澄来て芭蕉は来ぬと暮の秋

生きるとは哀しきものよ着ぶくれて

杉浦弘

掃き寄する栗の落葉のにぎやかく

竹鋸の切れよし冬の竹を伐る

飴色に大根焚きて神迎

気まぐれの炎に追はれ大焚火

いつの間に雪積む夜となりてゐし

湯に沈み顔押し拭ふ去年今年

塩味の利かぬを言ひつ冬籠

一羽発ち五六羽の発ち四十雀

どか雪のひと日の明けて春立ちぬ

かさね吟行会

「次太夫堀公園」 十月

田中清秀

村古りて木々の豊けき木の実どき
秋澄むや声朗々と運転手

周二
れい子

次太夫堀は代官小泉次太夫吉次によって開削された農業用水のこと、慶長二年（一千五百九十七年）から十五年もの長い歳月をかけて完成した。徳川家康が豊臣秀吉の命により関東に移封された後、関東開発の一つに多摩川の治水工事があった。駿河国出身で土木事業を得意とした小泉次太夫を代官として任命、知識と技術を活かして開削と新田開拓に当たらせた。この用水は多摩川近郊に生活する人びとにとっては重要で、多大の恩恵に浴した。平成三十年十月十二日世田谷にある区立次太夫堀公園の民家園を吟行した。天候は曇りで幸い雨は降らなかったが秋寒の一日だった。二子多摩川駅からバスで十五分ほど揺られ、次太夫堀公園前で降りる。しばらく小川の流れに沿って歩くと正門に着く。ここには名主屋敷やその土蔵、古民家二棟を復元して江戸後期から明治の農村風景を再現している。

小鳥来る堰をあふるる水の音

正規

長屋門形式の表門をくぐると、すぐに作業小屋があり、同好有志による小刀や包丁の小鍛冶が実際に行われていた、伝統の匠の技術に感心する。さらに進むと大工作業の実演も行われており、趣味を越えた本格的な仕事ぶりである。大きな農家の軒先には懐かしい脱穀機や唐箕、藁切り機などが展示され郷愁を誘う、日本の農村の原風景がここにあった。若い人にはその使い方は全く分からないだろう。また、室内は昔の生活そのままに土間や三和土が残され、薄暗い台所にはへつついや大釜などが展示されている。居間の中央の囲炉裏は、虫除けと腐敗防止の為に絶やさず薪が焚かれており、お陰で柱や梁は煙でくすんでいる。「荒神」は火の神様として信仰され竈の上や囲炉裏のある部屋の棚に祀られる。さらには田植えが終わると苗を供えて豊作を願い、旅の無事も報告する、子供の成長や病気の平癒も祈るという、人びとはコウジンサマと呼び心の支えとなってきた。

古民家のすり減る敷居そぞろ寒
くらがりの土間のへつつひ花梨の実

清秀
紀政

赤とんぼ火の見櫓に来て止まる
京子
どんぐりのぼつとぼつとところがれり
浩一

世田谷区では小学三年生になると遠足でここを見学する、当日も多くの生徒が訪れていた。引率の先生の指導よろしく係員の説明に整齊とノートを取りながら聞いている子供たち、社会勉強と良い思い出になるだろう。また、一軒では蚕が実際に飼われていた、養蚕は弥生時代に中国から伝来したといわれ、和服や錦として高級な織物に活用されきた。生きた蚕の観察と絹糸の紡ぎの実演も珍しい。

機織の優しき音や秋蚕飼ふ
養蚕のうだつ立つ家秋麗
白壁の土蔵に映ゆる照紅葉

陽子
由利
さち子

藍染め会のパンフレットが配られていた。畑で種から藍を實際に育て収穫し、その葉を乾燥させて「すくも」を作る、この染料で伝統の藍染めを再現しているのとこの。江戸時代から様々なものが染められた伝統工芸の一つである。日本の情景が藍染めの青色にあふれていたことから、ジャパンブルーという言葉が生まれたとか。そ

れが現在のサッカーユニホームにも繋がって親しまれているのも日本人の心情からなのかと頷ける。

秋色の次太夫堀公園には、茅葺きの大屋根と土蔵の白壁、自然のままの田んぼや畑、半鐘の掛かった火の見櫓など、今回訪れた民家園は文化的景観として大切に後世に伝えるべき遺産と言える。もう一度ゆっくりと訪れたくなる公園である。

句会はこの頃定番となったカラオケ店を使い、いつものように囁目三句出し四句選で行われ和気藹々の中にも真剣に取り組み、盛会の内に散会となった。

■かさね吟行会■

日時 二〇一八年十二月十四日(金)

場所 清澄庭園

集合 清澄庭園内涼亭 十七時集合

都営大江戸線・東京メトロ半蔵門線

「清澄白河」駅より三分

(早目に入園、吟行されますように)

申込 森岡陽子宛(03)3712・2835

『酔いの徒然』（八十）

丸山 酔宵子

『草津と葉山とベルツ博士』

白根山も木々が色付きはじめ、麓の草津温泉にも秋の気配が迫って来ている。昨秋の突然の噴火で一時は客足も減ったようだが、温泉街の中心にある硫黄臭漂う湯気の立つ湯畑には、平日とは言え多くの人たちが、滝のように流れる源泉を楽しんでいる。

草津温泉は江戸時代の儒教学者林羅山が有馬温泉、下呂温泉と並び日本の三名泉と称しているほどの名湯である。湯畑は石柱の柵で囲み込み、その周りをロータリー状にぐるりと木製デッキの広いテラスが出来ていて、足湯コーナーも備えている。これは、昭和50年当時の草津町長の経営するホテルに投宿したスキーと温泉好きの岡本太郎が、町長の要請に応じて、デザインと監修を受け持ったのである。

よく見ると、湯畑の石柱柵の一つ一つには草津温泉を訪れた歴史的著名人が来草年代とともに重厚感あふれた字で彫られている。古くは源頼朝、豊臣秀次、小林一茶、佐久間象山から高村光太郎、与謝野晶子・鉄幹などの文豪をはじめ、佐藤栄作、田中角栄までの100名の名前がある。

その中に何人かの外国人の名前があり、その中にドイツの明治政府お抱え医師であるエルヴィン・フォン・ベルツ博士の名前もある。ベルツ博士は草津温泉を世界に紹介した人物で、「草津には無比の温泉以外に、日本で最上の山の空気と、全く理想的な飲料水がある。もしこんな土地がヨーロッパにあったとしたら、チェコにあるカルロヴィ・ヴァリよりも賑わうことだろう」と評価している。カルロヴィ・ヴァリはヨーロッパの王侯貴族やゲート、バートーヴェン、ゴーゴリ、シヨパンなどの芸術家にも愛された温泉地である。因みに20年程前、当地で世界カクテルコンテストが行われ、日本代表として前日本バーテンダー協会会長岸久さんが新婚旅行を兼ねて

出場していた。

カルロヴィ・ヴァリでは3日間に渡り世界カクテルコンテストが行われたのであるが、その歓迎ブラックタイ正式ディナー・レセプションが古い瀟洒なホテルで開かれた。天井の高い豪華なメインホールで、舞台にはフルオーケストラが並び、チェコスロバキアの名曲スメタナ作曲交響詩「我が祖国」が演奏されたのである。今でもその荘厳且つ感動的演奏は忘れられず、鮮やかにその時の様子と音色を覚えていく。

ベルツ博士は明治・大正天皇とも近しく接し保養地としての葉山の地も愛し葉山御用邸を進言し、その縁で葉山町と草津の姉妹町としての友好関係がつづいている。

突然降り出した秋の強い雨の中、ロマンチック街道で嬌恋に向かうと、一面に広がるキャベツ畑の先に黄金に実った稲穂が雨に濡れ更に頭（こうべ）を垂（た）らしている。

重たげな稲穂を叩く秋驟雨

酔宵子

「江上浩二の独り言」12 江上浩二

生ゴミは庭の隅の穴へ

最近、異業種交流会で知り合った方が廃棄物処理（装置）のコストと、経済性を研究しているという。廃棄物といっても、色々な種類のものがあるが、生産系では、生産過程で排出される残渣、完成した製品を長年使って故障やら新型が出て、廃棄される製品。

このプロセスは、我々が口にする食品系でも同じである。農業生産過程で出る各種残渣、食品系の場合、素材であれば、加工中に排出される食品素材の残り物、有機物を含む洗浄水関係など、ちよつと考えてもさきりがない。今渦中の原子力発電所の廃棄物を書き出し、その数量、さらにその放射する放射線量までまとめ、コスト、経済性を論じると一大研究になってしまう。

休日、こんな事を考えていたら、レトロというか、小さい頃の実家での生活シーンを思い浮かべてしまった。

先ず、食べ物残渣であるが、食べ残しは雑種の犬を飼っていたので、犬の餌となった。犬が糞をすれば、庭（当時100坪程度の地面に小さな家があり、庭というよりサラリーマンをしていた亡くなった父が趣味でしていた家庭菜園（出来るだけ食べられるものを育てる）の堆肥になるよう）の隅に掘った穴にうめる。人の残した物や剥いた皮なども、当時生ごみ回収にも出さず、同じように庭の隅の穴に埋めた。又、人が生活していると燃えるようなゴミも出るが、新聞紙、包装紙の類はなぜか貯めていた。まあ、焼却できるものもゴミ回収に出さず、穴を掘ってそこで燃やして灰となった。

庭や家庭菜園があると植物の枯れ葉、枯れ木、刈った雑草なども貯まる。これらも、堆肥になるように生ごみを埋めた穴の近くに積み重ねておく。このような生活をしていると、ゴミ回収へ出すゴミがない。犬や猫も飼っていて、10年くらいの寿命で死ぬと、やはり庭の隅に穴を掘り埋めたものである。何匹かの犬や猫を飼って、死ぬと埋める穴の位置をずらし、生ごみを埋めて将来堆肥になる処も年々少しずつ移動させたものである。

こんな一サラリーマン家族の廃棄物処理（本来ならばこんな仰々しい語句は使う必要はないが）はコストや運用経費など全然考える必要がなく、ただ自然に処理できるだけの土地の広さが必要なことである。これを、今流りのサステイナブルと言っても良いが、わざわざ英語の sustainable を登場させなくても、せいぜい江戸時代へ回帰といった程度かもしれない。

まだ、続きがあつて、いい堆肥が出来ると翌年父が作る家庭菜園の作物が良く成ることだ。忘れてしまった作物もあるが、苺、メロン（これは昔の細長く黄色のメロン）、桃、梅、ホウレンソウ、別の葉物の類、人参、さつま芋、じゃが芋、茄子、胡瓜、インゲン豆などがあつた。実はこれらの菜園の種が必要で、駅前種の屋で買ってくる必要があつた。これもコストなど、仰々しく言う必要もなく、死んだ父の小使い銭程度で済んでいたはずと思う。子供からみても、酒を飲まず、吸う煙草と通勤で読む新聞を買う程度であつたように思う。

堆肥に加え、肥えた土壌には大きな蚯蚓（ミミズ）が育ち、釣りの餌にした。後年になって自分が結婚して東

京に住むようになってから、庭などない家の周囲の僅かな土に、実家の堆肥から育った蚯蚓をひと固まり持ち帰り、放った。蚯蚓が土地を肥やすと言うが、その後狭い土の中に僅かな草木も目立つようになった。蚯蚓以外にも大きな昆虫の幼虫（体長5センチくらい）なども土の中で生きていた。

農業で生計を立てている方々からすると、こんな事は日常茶飯事といわれるかもしれないが、都会や近郊では、今ではこのような江戸時代もどき、サステイナブルな生活も出来なくなつてしまつていゝ。一つ忘れていたことは、当時風呂を石炭で沸かしていた。その石炭の燃えカスももちろん、庭の隅の穴場行きである。

そんな実家も今では兄が新築し、屋根にはソーラセル（太陽電池）、ガスも不要でキッチンはオール電化の生活に変貌してしまつていゝ。それでも兄は庭の隅で菜園を続けていゝ。

楽しい時間 73

山本紀久雄

2018年10月31日

神にならなかつた鉄舟・・・その三

前号でお伝えした白河市の「合同慰霊祭」の翌日、平成30年（2018）7月15日は、群馬県高崎市倉渕町権田の東善寺に向かった。東善寺は小栗上野介の墓所である。

小栗上野介は、安政7年（1860）、日米修好通商条約批准のため米艦ポーハタン号で渡米し、地球一周に近い旅をして帰国。その後は多くの奉行を務め、江戸幕府の財政再建や、フランス公使レオン・ロッシュに依頼して洋式軍隊の整備、横須賀製鉄所の建設などを行った。

鳥羽伏見の戦いの後、徳川慶喜の恭順に反対し、薩長への主戦論を唱えるも容れられず、慶応4年（1868）に罷免されて領地である上野国群馬郡権田村に隠遁。同年閏4月、薩長軍の追討令に対して武装解除に応じ、自身の養子をその証人として差し出したが逮捕され、翌日、斬首された。

逮捕の理由として、大砲2門・小銃20挺の所持と農兵の訓練が理由であるとする説や、勘定奉行時代に徳川家の大金を隠蔽したという説（徳川埋蔵金説）などが挙げられるが、これらの説を裏付ける根拠は現在まで出てきていない。

東善寺には、二人の胸像が立っている。

左が小栗、右が栗本鋤雲である。栗本は小栗家の屋敷内を

借り開いていた安積良斎塾に入り、小栗と知り合い生涯の盟友となり、横須賀製鉄所（造船所）建設の現地責任者を命じられた。

東善寺のホームページ「栗本鋤雲の事績」によると、《ヴェルニーを上海より呼び寄せて総裁とし、横須賀湾にツーロン製鉄所の3分の2の規模として、製鉄所1ヶ所、ドック大小2ヶ所、造船場3ヶ所、武器廠共に4年で完成する。費用はおよそ1年60万ドル、4年で総計240万ドルを要することを契約した》とある。

小栗の胸像は、神奈川県横須賀市汐入町のヴェルニー公園内の開明広場にもある。この公園はフランス庭園様式を取り入れた造りで、対岸にフランス人技師ヴェルニーが建設に貢献した横須賀製鉄所が望め、ヴェルニー・小栗祭りとして二人の功績をたたえる式典も毎年開催され、小栗の胸像説明として以下が書かれている。

「日本初の遣米使節をつとめ、外国奉行や勘定奉行など徳川幕府末期の要職を歴任し、フランスの支援のもと横須賀製鉄所（造船所）建設を推進しました。軍政の改革、フランス語学校の設立など日本の近代化に大きく貢献したが、大政奉還



後に徹底抗戦を主張したため役職を解かれ、領地の上野国権田村（群馬県倉渕村）で官軍により斬首された」

横須賀市内にある小栗の胸像はこれだけでない。「横須賀市自然・人文博物館」（神奈川県横須賀市深田台）の入口前にもあり、さらに同博物館の人文館2展示室「17～19世紀の和洋船と浦賀」に以下の記述とともに胸像が設置されている。

《海を切り拓いた人々として、安針塚駅で知られるウィリアム・アダムス、横須賀製鉄所を成功に導いた小栗上野介忠順とフランソワ・レオンス・ヴェルニーの胸像を入り口に展示して、皆様をお出迎えています》

さらに、「横須賀市自然・人文博物館」に隣接している「横須賀市中央公園」にも小栗の胸像が設置されている。これからわかることは横須賀市が小栗の業績を高く評価していることで、小栗の業績についてヴェルニー公園の事務所でもらった小冊子『小栗上野介と横須賀』に以下のように業績が書かれている。

《小栗は横須賀製鉄所のほかに、鉄道建設（江戸～横浜間）、国立銀行、電信・郵便制度、郡県制度の創設や、また商工会議所や株式会社組織など近代的な経営方法をも発案していった。これらは明治以降、新政府の手で次々に実現され、急速に近代国家としての形を整えていきましたが、その陰には小栗が旧弊を打破し、近代国家に向けて推進しようとしていたことが、浸透し始めていたことを忘れてはなりません》

《明治・大正の政界・言論界の重鎮であった大隈重信は、後年「小栗上野介は謀殺される運命にあった。なぜなら、明治

政府の近代化政策は、そっくり小栗のそれを模倣したものである」と語ったといわれています。現代にも通じるものがある激動期の幕末に、類まれなる先見性と行政手腕を発揮した小栗の功績は、近年あらためて見直されています。横須賀市では、毎年式典を開催し、小栗の功績をたたえています》

この讚えた結果が、横須賀市内にいくつもある小栗の胸像なのである。

近代以前、特定の人物を神に祀り上げるといふ習俗には、二つの類型があつて、一つは「崇り神」タイプ、もう一つは「顕彰神」タイプで、小栗の胸像は明らかに製鉄所建設を推進した行為に対する「顕彰」として作られたのであろう。

小栗を「顕彰神」として、横須賀市は胸像を建てたが、『小栗上野介と横須賀』に記されたように、その功績は日本全体の近代化に大きく貢献しているし、司馬遼太郎も「明治という国家」（NHKブックス）の中で、小栗を「明治の父」と讚えている。

ならば小栗の生前の偉業を顕彰するためには、横須賀市に止まるのではなく、日本国家としての「顕彰神」にすべきではないか。

しかし、現実は一地方行政下での功績扱いにとどまっているが、鉄舟と比較すると胸像によって「顕彰神」になっているだけ「まし」である。鉄舟の2大功績は「江戸無血開城」と「明治天皇の教育」であるが銅像になつていない。なぜか。次号以降も検討していきたい。

絹の話 (97)

「アトリエトレビ」今 泉 雅 勝

多孔質野蚕絹は地球を救うヒントになるか？

多孔質素材とは

天然の多孔質素材（アットランダムな空間）

* 木炭：脱臭剤、浄水剤（上下水道水の濾過）。

*ゼオライト（鉱物）：消臭剤、土壤改良剤（窒素、リン酸を吸着）放射性物質の吸着。

*野蚕絹（ヤママユガ科）：未利用

人工的多孔質素材（規則正しい空間）

*シリカゲル（ケイ素中心）：乾燥剤

*PCP：金属と有機分子の様々な組み合わせで、孔の大きさや性質を自由に変える事の出来る人工新物質。銅に溶媒の中で有機物質と組み合わせると：規則正しい空間が並ぶ多孔質高分子物質が出来る。

コバルトやニッケルに溶媒の中で有機物質と組み合わせでメタンや窒素を吸着する多孔質高分子物質を作る。

溶媒を抜くとパウダ状の結晶となり、アセチレンの排ガスに含まれる一酸化炭素ガスを吸着する。

PCPは大変利用価値の高い物だがウィークポイントも有る。製造コストが高い、パウダ状で飛散しや

すく、水に容易に反応して構造が崩れ易くて、安定的に機能を発揮させる事が難しい。など、まだまだ多くの研究を要する。

製品化成功例

英国：青果保持剤ーリンゴなど果物はエチレンガスを放出して熟成するので、PCPの弱点を逆手に取って、PCPが空中の水分を受けて徐々にその構造が崩れガスが放出され、そのガスがエチレンの追熟機能を阻止する物質を作った。

米国：ガスボンベ：PCPは半導体などに必要なガスを効率よく溜め込む為に、ガスボンベの中に入れば、ガスを高圧圧縮しなくても、PCPが大量にガスを吸着するので、低圧で爆発の危険を伴わない安全搬送が可能で、ガスボンベの小型化に成功。

環境問題対策

CO₂をPCPに吸着させて地中に隔離する事など。
(右記：2018/10/8 朝日新聞 文化の扉)

どのような糸が多孔質なのか

ヤママユガ科の繭糸は多孔質構造になっている。
アゲマミトレイ（特大型繭目状銀色繭。生息地域…マダガスカル、ケニア等アフリカ赤道付近。超太織度30〜60デニール。吐糸1糸の多孔空間率：約25%前後）

クリキュラ（小型編目状金色繭。生息地域…インドネシア等東南アジア。細織度2・5デニール。空間率120%前後）

インドタサール、チャイナタサール（柞蚕）ジャパンタサール（天蚕）（大型固繭…それぞれ茶、薄茶、緑色。生息地域…それぞれインド、中国、日本。太織度…6〜10デニール。空間率18%前後）

エリ（中型ソフト繭。生息地域…東南アジア熱帯、亜熱帯地域。細織度2・5デニール。空間率5%前後）

多孔性絹糸の機能性

多孔性絹糸で出来た衣服は着用して軽くサラリとしていてタサール蚕や柞蚕は黄変せず、虫の被害もなく、気持ちが良いといわれている。他の絹糸昆虫の糸には存在しない多孔質構造はヤマユガ科の昆虫が進化の途中で獲得した特異な生存のメカニズムと思われる。糸の多孔質構造はヤマユガ科の昆虫の生存にどの様に利しているのだろうか、まだ誰も研究に取り組んでいない。

機能性のメカニズムは不明瞭だが、一般的に左記の様な事例が認識されている。

1) 吸臭性（防臭性）…多孔質の空間に臭いを吸収する。

* エンドレスに吸収するか不分明。エンドレスに吸収するとしたら、吸収した物質を、吸収した紫外線を非紫外線領域の波長に変えて糸外に放出するよう

に、無臭の物質に変えて放湿していると考えられないだろうか？

2) 保温、放温性。保湿、放湿性

ヤマユガ科の絹製品を着ると、空間率の高い素材ほど柔らかな暖かさを感じる事は認知されている。温度が上昇すると絹繊維の60%を占める非結晶部分に人体や空気中から水分を吸収し、一定量になると水分を気化させ、気化熱で温度を調節している。

3) 緩衝性
* 低体温防止など冬山登山、災害時に有効。

空間が折り重なった織物は防災マットのように衝撃を和らげる。* 災害時に有効

4) 防紫外線性

繊維の空間率が高いほど紫外線を防止している事は認知されている。その訳は明らかになっていない。

5) 抗菌性（静菌生）

繊維の空間率が高いほど抗菌性も高いと言われるが、そのメカニズムは定かでない。

自然の進化の驚異の研究開発は急務

ヤマユガ科の多孔質繊維の一本の孔の中の片側に繊維が規則正しく並んでいるのは何に役立っているのか？驚くべき秘密が有るように思われてならない。

漢詩研修 (二十六)

千代田岳精会 平井茂行

勸学 かんがく

木戸孝允 きどたかひ

驚馬遅しと雖積歳多ければ どばおそしといえどもせきさいおほければ

高山大沢尽く過ぐるに堪えたり こうざんだいざくこぼすにたえたり

請看一掬泉巖の水 こくみんいつくせんがんのみず

流れて汪洋万里の波と作る ながれておうようばんりのなみとな

驚馬遅しと雖も積歳多ければ
高山大沢尽く過ぐるに堪えたり
請看一掬泉巖の水

驚馬遅しと雖も積歳多ければ
高山大沢盡く過ぐるに堪えたり
請看一掬泉巖の水
流れて汪洋万里の波と作る

【作者】

木戸孝允（二八三三—一八七七） 明治維新の元勳。通称は小五郎、のち貫治また準一郎といった。松菊はその号。父は和田昌景まさかげといい、長州（山口県）萩の藩医であった。孝允は初め同藩の桂九郎兵衛に養われ、桂氏を名のった。母の没後、文武の修行に志し、十七歳のとき、松田松陰の門に入り、経史および兵法を修め、意を国事に寄せるに至った。二十歳、公暇をえて江戸に上り、斎藤弥九郎に剣を学ぶ。江川担庵えがわああんに西洋兵術を受け、相州警備の海防に志した。安政五年、藩の文武修業所であった有備館御用となり、藩主に勧めて兵備を充実し、翌六年には有備館の舎長となった。このころ、国内騒然として尊皇攘夷の論が盛んになったので、文久二年、京都に出て世子元徳もとのりおよび藩主敬親たかちかを補佐した。坂本竜馬・中岡慎太郎らと謀議し、慶応二年、西郷隆盛らと会合、薩長同盟を結んだ。明治維新以後は新政府の元勳となり、明治十年、西南戦争の起こったとき、西郷を思い、病をおしてみずから戦地に赴かんとしたが、明治天皇の「卿一日も朕わがみが左右を離るべからず」とのお言葉に感泣、命を奉じて留まったが、五月二十六日、戦争の終局を見ないうちに、京都に薨じた。時に享年四十五歳。

【語釈】

西郷・大久保とともに維新の三傑と称せられる。その伝記には『松菊木戸公伝』、『木戸孝允』、基本資料としては『木戸孝允文書』八巻などがある。

* 驚馬：足ののろい馬。才能の乏しい人間にたとえる。* 積歳：年を経る、歳月を積み重ねる。* 大沢：大きな沼沢地。大湿地帯。* 一掬：掬はすくう。両手で一すくいするほどのわずかな量。* 汪洋：海の広々として果てしのないさま。

【鑑賞】

自己の「生なま」の体験は、この詩の生命である。幕末混乱の世に生命を賭して国事に奔走し、ついに維新の大業を成した志士の偽らざる体験の結果を述べたものであって、その真摯しんしな心の声に深く傾聴する。前途に幾多の困難が横たわっていたが、絶えざる努力精神をもって、これを打開しうるとの希望と自信とがうかがわれる。

「歴代天皇御製歌」

貫名海屋資料館

後水尾天皇宸翰和歌懷紙 後水尾天皇筆 江戸時代 十七世紀 仁和寺

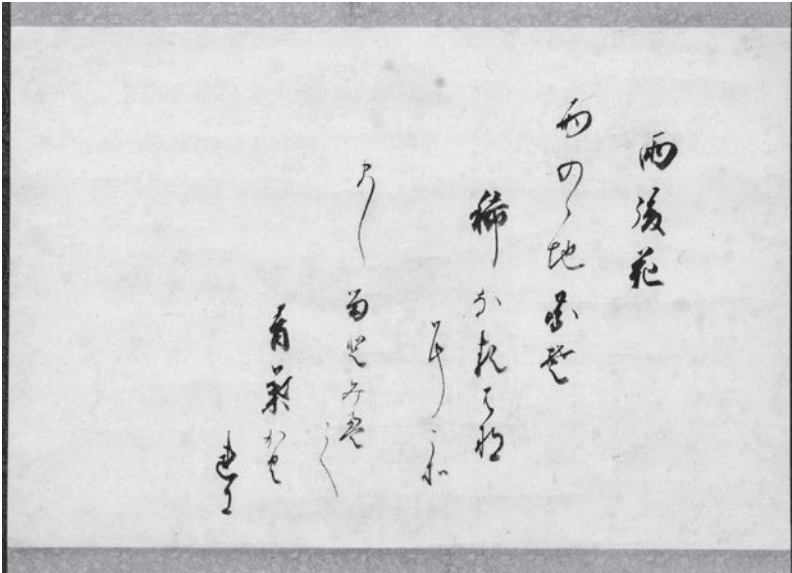
後水尾天皇筆

紙本墨書

縦三〇・二 横四五・三

江戸時代 十七世紀

仁和寺



「釈文」

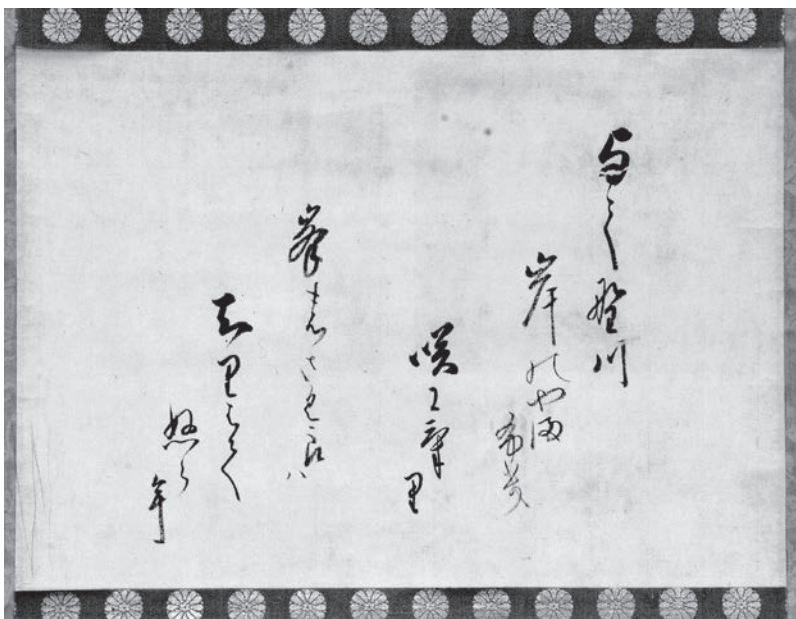
雨のち 花ぞ

稀なるはな

にこそ

ましるとみえし

青葉かくれに



後西天皇宸翰和歌懷紙 後西天皇筆 江戸時代 十七世紀 仁和寺

後西天皇筆

紙本墨書

縦二九・七 横四二・六

江戸時代 十七世紀

仁和寺

「釈文」

よし野川

岸のやまぶき

咲きにけり

峰のさくらは

ちりはて

ぬらむ

(参考文献・東京国立博物館・真言宗御室派総本山仁和寺)

萬葉秀歌の鑑賞

津之地直一

小竹の葉はみ山もさやにさやげども吾は妹思ふ別れ来ぬれば

小竹之葉者 三山毛清爾 乱友 吾者妹思 別來礼婆(③一三三、柿本人麿)

(口訳) 小竹の葉はこの歩いてる山全体にさらさらと音を立ててそよいでいるが、自分はただひたすらに妻の事を思いつづけている。今その妻に別れて、來てしまったので。

前歌に続く反歌の第二首目、第三句は原文に見られる如く「乱友」とあつて、これは「ミダルトモ」「ミダレドモ」「マアガヘドモ」「サワゲドモ」等とも訓まれている。茂吉は「此の場合の笹の葉の状態は聴覚より寧ろ聴覚を伴ふ視覚に重きを置くべきであるから、それならばミダレドモと訓む方がよいのである」と言い「サ・サの葉はミ・ヤ・マもサ・ヤにミ・ダレドモのやうにサ音とミ音と両方で調子を取つてゐるのだと解釈する方が精しいのである」とも述べている。然し私はここは矢張り「サ・サの葉はミ・ヤ・マもサ・ヤにサ・ヤゲども」とサ音の頭韻と、ヤの音を繰返して調子を整えているものと見たい。この訓でこそ始めて、全山さやさやと風に鳴る小笹ささの葉のはずれのそよぎも聞えて來るし、「乱れども」とあえて言はなくても、その動的写象は人麿の心眼には鮮明に映っているのである。人麿は山路に佇み、眼をつむつて沈思してもよいのである。サ音とミ音の諧調説は精に似て穿ち過ぎたきらいが感じられてならない。とまれ、一首人麿特有の重厚な声調で、その中に無限の哀感のこもっている秀作だと言えよう。

青駒の足搔あがきを早み雲居にぞ妹があたりを過ぎて来にける

一二云フ あたりは
隠り来にける

青駒之 足搔乎速 雲居曾 妹之当乎 過而來計類 一云 当者
穩來計留 (2) 一三六、柿本人麿

(口訳) 私の乗って来た青駒の足の運びが早いので、雲居はるかに妻の家のあたりを後にして来たことだ。

この歌も人麿が石見国から妻に別れて大和へ上って来る時に詠んだ長歌の反歌である。青駒は青毛の馬で「青」は黒に青みを帯びた色沢をいう。尤も中古になると「白馬アオウマ」とも書くようになり、これは葦毛乃至白い毛なみの馬を指して言った。「雲居に」は雲のかかっているはるか遠い彼方の意。「一に言ふ」の方の「隠」を「隠り」と訓むのは四段活用動詞として訓んだもので、万葉も後期になると下二段が優勢になるから、それに従えば「隠れ」と訓んでもよい所である。この句、本文のそれと比較して、意味がやや曖昧であり、「スギテキニケル」の単純直截な表現には及ばない。茂吉はこの歌について「歌柄が大きく、人麿的声調を遺憾なく發揮したものである。恋愛の悲哀というよりは寧ろ莊重の氣に打たれると言った声調である」と評している。人麿の心の響が直接吾々の心にも伝って来るような作である。

「歴代天皇御製歌」(九十五)

貫名海屋資料館

「昭和天皇」⑤

草原

那須の山そびえてみゆる草原にいろとりどりの野の花はさく

浅虫の宿にて

初夏の雨うちけふるむつの浦島影あはく見えてくれゆく

弘前にて

あかねさすゆふぐれ空にそびえたり紫にほふ津軽の富士は

秋芳洞にて

洞穴ほらあなもあかるくなれりここに住む生物いかなりゆくらむか

昭和三十九年・一九六四・六十四歳

「那須産変形菌類圖説」を生物学御研究所より御出版。

オリンピック東京大会開催

紙

世にいだすと那須の草木の書編^{ふみ}みて紙のたふときことも知りにき

佐渡の宿にて

ほととぎすゆふべききつつこの島にいにしへ思へばむねせまりくる

昭和四十年・一九六五年・六十五歳

「相模湾産蟹類」を生物学御研究所より御出版。

鳥

國のつとめはたさむとゆく道のした堀にここだも鴨は群れたり

六道湖

夕風の吹きすさむなべに白波のたつみづうみをふりさけてみつ

三朝^{みささ}

戦の果ててひまなきそのかみの旅をししのぶ^{むろ}この室を見て

鳥取の宿にて

飼ひなれしきんくろはじろほしはじろ池にあそべりゆふぐれまでも

昭和四十一年・一九六六年・六十六歳

聲

日日のこのわがゆく道を正さむとかくれたる人の聲をもとむる

道後の宿にて

晴れわたるこの朝ぼらけはるけくも霞む四國の山なみを見つ

五色台に少年団の訓練を見て

この岡につどふ子ら見てイギリスの旅よりかへりし若き日を思ふ

飛行機の旅にて

飛行機の翼のました工場を雲間に見たり水島のあたり
晴れわたる大海原ははてもなし八丈島も遠おちにうかびて

秋季国民体育大会

秋ふけてこの廣庭に子らはみなふるさとぶりの踊り見せたり

山下湖畔

しづかなる山下湖には白鳥のうかぶ姿も見えてくれゆく

昭和四十二年・一九六七年・六十七歳

「カゴメウミヒドラ科ヒドロ蟲類」を御出版

孝明天皇御陵

百年ももとせの昔しのびみささぎて陵みもとせををろがみをれば春の雨ふる
春ふけて雨のそほふる池水にかじかなくなりここ泉涌寺せんにゅうじ

武甲山登山

山裾の田中の道のきぶねぎく夕くれなるにほへるを見つ

昭和四十三年・一九六八年・六十八歳

「相模湾産ヒドロ珊瑚類および石珊瑚類」を御出版

十月、明治百年記念式典行はる

川

岸近く鳥城そびえて旭川ながれゆたかに春たけむとす

宮殿の竣工

新しく宮居なりたり人々のよろこぶ聲のとよもしきこゆ

本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬

本田 勇氣

2018年11月5日

マスクの着け方 ①

歩いていると

喉がくっついてくる感覚と

イガイガ カラカラと

乾燥が気になる季節になってきましたね

いよいよマスク本番ですね

『本田のひとり言』でも

毎年マスクの着け方について

書いていますが

1個つつ細かく書きたいと思います

マスクは着け方によって

全く意味のないものになってしまいます

そこで

◎サイズがあっているものつける

顔とマスクに極力隙間をつくらない

というのが大切です

マスクは菌の潜入を防ぐというよりも

□鼻の湿度を保つというのがメインです

ですので

隙間があると乾燥した空気が

入ってきてしまうので

意味が無くなってしまうんです

そこで

今は小さめマスクとかがありますが

それでも大きい方は

種類の違うマスクを2枚重ねる

二重にして着けるという方法です

もちろん小さい方を下にして下さい

その他には

マスクの耳の紐をしばり

密着感をあげるという方法です

せっかくのマスク

意味ある着け方でウイルスを防いで行きましょう

2018年11月7日

マスクの着け方 ②

前回の『本田のひとり言』でマスクの隙間対策について書きました今回はウィルス予防法ですマスクは 気管などの湿度を保ち風邪をひきにくくします
そこで

もっとマスクでウィルスの侵入を防げたら!!!

ということが登場するのが

花粉の時期に活躍した

花粉スプレーです

ウィルス 花粉 黄沙 PM2.5

をブロックと書いてあるので

本当なら凄い効果です

ただ

花粉の時期に確かに

大なり小なり効果がありました

このスプレーを大丈夫な方は

顔とマスクの表面に噴霧

顔の皮膚の乾燥が気になる方は

マスクの表面のみに噴霧してみてください

マスクがウィルスを防いでくれるようになれば

感染率が減ります

試してみてくださいね

御津磯夫短歌鑑賞 12

「月虹」 鮫島 満

伊藤左千夫は牛飼なりき酪農といふあいまい語は昔なかりき
『かうしんばら』 昭和五十六年

明治三十三年一月、三十三歳の伊藤左千夫は、三十三歳の正岡子規を根岸の子規庵に訪ねた。左千夫が子規門に入ったのである。『左千夫歌集』の冒頭に置かれる歌、

牛飼が歌よむ時に世のなかの新しき歌大いにおこる
はこの頃に詠まれたとされる。ついでに言えば、長塚節が初めて子規庵を訪ねたのもこの年の三月のことで、すでに子規と活動を共にしていた岡麓を含めて根岸短歌会を継ぐアララギの初期メンバーがそらい初めていたことがわかる。

左千夫が右の歌で「世のなかの新しき歌大いにおこる」と詠んだことは、明治三十一年に「歌よみに与ふる書」

を書き、短歌の革新を説き始めていた子規には頼もしく思われたと思われる。左千夫は、右の歌を詠んだところに「春山ノ花モヨケドモ夏山ノ緑ヲコノム牛飼吾ハ」とも詠んでいる。また、子規も左千夫のことを長歌において、下総のたかしがもとゆ 贈り来しにこ毛兎を厨刀音 かつかつと 牛かひの左千夫がほふりふた股の太け き煮て……あなうまそびら肉の 炙れるをむさぼる は吾ぞ…… と、「牛かひの左千夫」と表している。

さて、冒頭の歌。左千夫は自分を「牛飼」と言い、子規らも同様に表していて、それはまさしく最も適切な言葉だとの思い出詠んだものと思われる。その後「酪農」という語が現れたことを嘆いているのである。それは、「酪農」が、牛、羊、馬などを飼育し乳製品を作る農業を表していて、必ずしも左千夫のように「牛」を飼って牛乳を売る仕事だけをいうものではなく、仕事の内容を「あいまい」にしているというのである。

「氷魚」のことから (215) 岡本八千代

子規の句に

秋のいろあかきへちまを画にかゝむ、

というのがある。子規の寝ている部屋の窓から糸瓜がぶらぶら
がっているのが見えるのだ。それを「あかきへちま」と写生
する。それは「秋のいろ」と見ている。なんと、子規の感動
の表現。私はとくに、季節の移り変わりの表現に「秋のいろ」
としたところに感動。いろいろ思いを續けているうちに、英
語訳はないものかと本を調べた。

中央公論社出版の日本文学の歴史16のドナルド・キーン
著、新井潤美訳（近代現代）に、あったのである。

子規は、晩年の長い闘病生活中も会合など積極的に携わ
り、橘曙覧や平賀元義もとよしなどの家人を新たに発掘したりした。
しかし、病気が進むにつれて病室に詩的な要素を見出すのは
むずかしくなっていた時の歌をここに書く。

○四年寝て一たびたてば木も草も皆眼の下に花咲きにけり

Four years spent in bed -

I got up for the first time

To find the tree and plants.

All of them, before my eyes.

Had burst into flower.

これは初めて杖により立ちあがった時の歌。

○瓶にさす藤の花ぶさみじかければた、みの上にとどかざ
りけり

The wisteria cluster

Thrust into the vase

Is so short

It does not reach

As far as the tarami.

この歌は、日本では有名であるが、英訳ではそれほど強い
印象を与えないだろうと言われているらしい。なぜなら表面
的な意味は、ただ子規の机の上の藤の花が床にまでは届かな
いだけの歌とらえられてしまうから。日本の子規ファンの
人たちに言わせると、この歌には深い真理がひそんでいると
思っている人が多いと思う。私もその
中のひとりかもしれない。この歌を、たゞ客観的に考えれば、
何でもないことのように思えるだろうが、主観的に読み知っ
てゆくと、感動する歌と思えるだろう。読む人の心の問題に
なってくるのかも。主観と客観のとらえかたは同じ日本人で
もそれぞれに異なる故におもしろい。

元気な人が、海や川へゆき、それはそれなりに味わってく
る風景の思いがあるであろう。しかし、子規の場合、何處へ
もゆけない病床の身で見ると、狭い範囲で眺めるものへの感動
はまたちがうものなのだろう。人の心の動きは尊くもあり、
また魅力的なものだなあ。

編集室だより【二〇一八年十月】

今泉 由利

○千代田区文化芸術の秋フェスティバル・日経ホールにて。

千代田フィルハーモニー管弦楽団・指揮・和田樹

化学オーケストラ・指揮・宮野谷義傑

明治大学OB交響楽団・夏田昌和

ムシカ・プロムナード・指揮・瓦田尚

それぞれの楽団のそれぞれの個性を、心ゆくまで楽しんだ。私自身が清く洗われたような気持ちになれるのだった。

○京都・大報恩寺・快慶・定慶のみほとけ

東京国立博物館・平成館にて。

重要文化財・十大弟子立像・快慶作

①舍利弗立像・智恵第一・頭脳明晰、聡明さは誰にも負けない。

②目鍵連立像・神通第一・いざという時は、超能力が使える。

③大迦葉立像・頭陀第一・清貧をつらぬき、修行に励み

ました。

④須菩提立像・解空第一・何事にも執着しない。

⑤富楼那立像・説法第一・人々を説得できる。

⑥迦旃延立像・論議第一・理論家で問答が得意。

⑦阿耶律立像・天眼第一・日はみえないが、心の眼で見

通せる。

⑧優婆離立像・持律第一・基本に忠実に戒律を守る。

⑨羅睺羅立像・密行第一・隅々まで怠らずに精進しました。

⑩阿難陀立像・多聞第一・お釈迦様の話を一番沢山聞きました。

○「自分の仏様は自分で彫る」と決めてはいるけれど、遅遅としているばかり。でも、お釈迦様の近くに居られた『十大弟子の立像』の存在に出逢えた。

○曹洞宗、大本山總持寺へ俳句の吟行。

御祭神の釈迦如来様との遭遇。

頂度、仏教の世界大会が開催されているのを目の当たりにした。

インドからその近辺の国々、タイ、ミャンマー、スリランカ、カンボジア、中国…そして日本の幼稚園生達が、世界仏教の仏旗を振り、それぞれの国の僧衣が、民族衣装が行き交う。私の現実に、仏旗を振ってくださるのでした。

○お釈迦様の国、インドより中国に運ばれた梵語が中国語に訳され、漢字を、漢詩を…受けて日本語ができ、西行の和歌に…芭蕉の俳句に、日本の文人達の発想の元となり…。この頃、私をかけた構図に、素直に入り込むのでした。

○お釈迦様に座していただく蓮の台を彫っていて、上野の不忍池に、蓮の花のスケッチに出掛けていたことを思い出した。しつかりスケッチした蓮の台と照らし合わせて、安全安心に彫ってゆく。

野菜・まんだら

(10) マンゴー MANGO



- 原産地、インド、マレーシア。
- ウルシ科、常緑高木。
- フィリピン産、メキシコ産、タイ産、熱帯ならどこでも産するという。
- お釈迦さまが瞑想、大悟開眼をされたのは菩提樹ではなく、マンゴーの木であろうという説もある。
- アレキサンダー大王がインダス溪谷に侵入時、マンゴーを知り、これをマケドニアに持ち帰ったとも。



- ポルトガルのバスコ・ダ・ガマが15世紀にインド航路を発見し、ポルトガル人によって、アフリカへ、ブラジルへ、西インド諸島へ、陸路をメキシコ、フロリダ、カリフォルニア、ハワイ…。
- マンゴーを、三つにおろし、皮の果肉はそのままスプーンで食べても、切れ目を入れてひっくり返すと食べやすい。
- 種は、そのままおしゃぶり。
- ビタミンA、C、カロテン、カルシウム、食物繊維、バランスの良い、健康食品であること。



- マンゴーは、ウルシ科だから、かぶれる性質の人は気を付けないといけない。私は大きな種をおしゃぶりしていたら、唇がプリンと腫れあがった。それからは、どこにもさわらないよう上手にいただく。
- インドの完熟アルフォンソマンゴーと信州伊那の天然水のブレンドジュースを毎朝飲んでいるのは、インドシルクのおかげなのです。

今泉由利

「三河アララギ」について

- ◇三河アララギ発行所 〒一四一・〇〇二二
東京都北区王子本町一・二六・六・A
- TEL (〇三) 五九二四・二〇六五
- ◇URL <http://imaizumiyuri.jp/>
E-mail yurimaizumi@jcom.zaq.ne.jp
- ◇編集・発行 今泉由利・森岡陽子
- ◇三河アララギ誌は毎月発行します。
- ◇会員・今まで会員の方。希望される方。
- ◇会費制 廃止。
- ◇新しく購読を希望される方 一ヶ年五千円。
- ◇振替口座 〇〇八三〇・六・五六二二九
- ◇原稿送付先 〒一四一・〇〇二二
東京都北区王子本町一・二六・六・A
- ◇原稿は毎月末日までに郵送下さい。